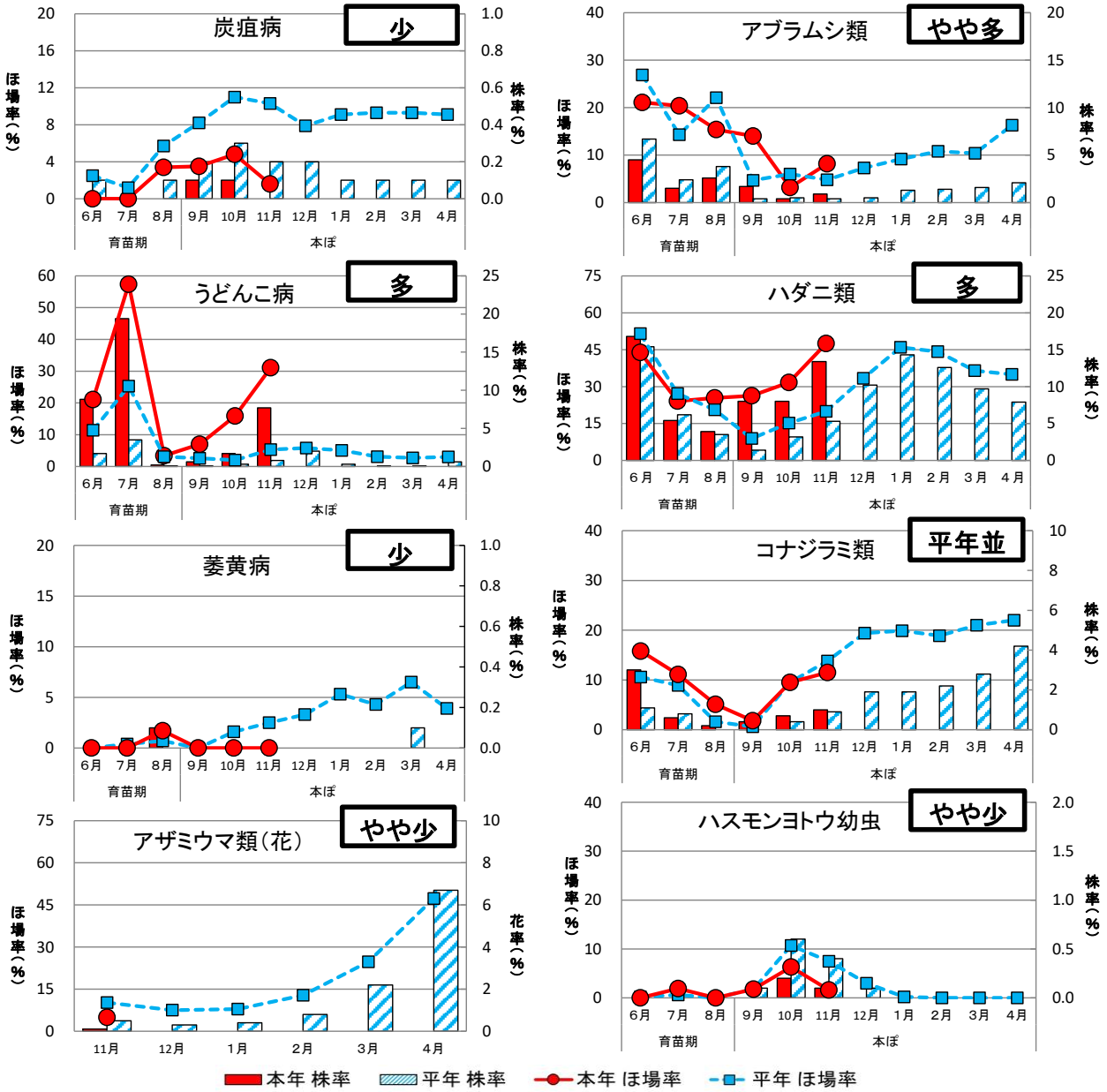
いちご病害虫情報第６号（11月）

令和８(2026)年11月24日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■　病害虫の発生状況　【総調査ほ場数：63 か所】



※ほ場あたり25株調査　※株率(%):発生株数／調査ほ場数×25株　※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■　今月の防除ポイント

－　ハダニ類の防除対策　－

収穫が本格化する前に、早めの防除対策で被害を防止しましょう。ハダニ類は化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、化学農薬に頼らない防除対策（天敵製剤や気門封鎖剤）を積極的に活用しましょう。

１　ほ場をこまめに観察し、早期発見、早期防除に努める。

２　ハダニ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布時は薬液が葉裏に付着するように散布する。なお、化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。

３　天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。

■　今月のトピックス　アザミウマ類

主要な種類

アザミウマ類はいちご栽培で重要な害虫で、花や果実に寄生します（写真１）。

県内のいちごで最も主要な種はヒラズハナアザミウマ（写真２）ですが、その他の種（写真３）も発生します。いずれの種も体長は１～２㎜であり、肉眼での識別は困難です。

アザミウマ類の発生は、花の観察の他、白い紙等の上で花を軽く叩く方法でも確認できます。アザミウマ類が発生していれば、花を叩くと細長く褐色または淡黄色の小さな虫が紙の上に落ちます。



写真１　花上のアザミウマ類



写真２　ヒラズハナアザミウマ



写真３　ミカンキイロアザミウマ

被害

アザミウマ類に果実を加害されると果実肥大後にそう果（種に見える部分）の周囲を残して表面が褐変するため、商品価値が低下します（写真４）。

防除対策

秋のハウス外からの侵入は開花から 11 月頃までであり、その後の冬季の発生はハウス内の残存個体に由来します。年明けから春先にかけて再びハウス内で増殖を開始するため、年明けまでの防除を徹底しましょう。





写真４　アザミウマ類により加害された果実

１　花をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。１割以上の花にアザミウマ類が確認された場合は、速やかに薬剤防除を実施する。薬剤感受性の低下を防ぐため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。天敵を導入する場合は、天敵への影響に注意して使用する。

２　天敵製剤や気門封鎖剤を活用する。天敵導入時にアザミウマ類が多いと失敗しやすいため、導入前に天敵に影響の小さい薬剤でアザミウマ類の密度を低下させる。

３　詳しい防除対策は防除のポイント No. 19 を、薬剤の選定には栃木県のいちごに発生したヒラズハナアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果、いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果、続報を参照。

詳しくは農業総合研究センター環境技術指導部防除課までお問合せください（℡ 028-665-1244）。

病害虫情報発表のお知らせはＸ「栃木県農政部」、「農業総合研究センターホームページ」でもご覧いただけます。